







崇高なアッラーはこれらのサウムの日々を連続である必要はないと言います。もしそれが全能のアッラーが明らかにした条件であれば

ラマダンの逃した日々を補わなければならないなら、自発的なサウムを行う前にそのサウムを行うべきです。何故なら、サウムの義務はより偉大で重要だからです。しかしラマダン中の義務的なサウムの日を補う前に任意のサウムが許可されます。もし任意のサウムの日とその美徳の為に、逃したくない場合です。

例としてはムハッラムの10日目、

アラファの日、シャウワルとそのような6日間のサウム、

ラマダンのサウムの日を補う機会は次のラマダンの前までの6日間のサウム、

ラマダンの日数を補う為の機会は次のラマダンまでであるからです。

しかし、早急にラマダンの日数を補うほうが良いです。

有効な理由で死ぬまでにラマダンの日数の補いを延期する者

は誰でも、意図的にサウムを残したのではないので、彼に反対はありません。しかしもし、理由がない場合は、ラマダン中にサウムをしなかった日数の貧者に施しますが、もしそのサウムがナスル（もしなにかが起こったらアッラーの為にサウムすると誓うこと）であれば、かれの、後継ぎは彼の変わりにサウムしなければなりません。数人の学者はもしある者が死にラマダンからの補う日数がまだあったとしたら、ラマダンの義務のサウム、もしくはナスルサウムまたそのようなものであろうと、彼の後継ぎは亡くなった者の代わりにサウムすべきです。アーイシャ（彼女にアッラーが悦んでくれますように）の伝承によるとアッラーのみ使いは述べました： 亡くなり（ラマダンに逃した日数を）サウム（齋戒）しなければならぬ者は、保護者（後継者）が彼の変わりにサウム（齋戒）しなければなりません（合意）

；イブン・アッバス（彼がアッラーに悦んでもらえますように）は述べました： ある男が預言者へやって来て言いました。「アッラーのみ使いよ！私の母は亡くなり。(合意)